

日本クリスチャン・アシュラム連盟

夏季号

開 心
静 聴
充 満
献 身
奉 仕

日本アシュラム

United Christian Ashrams of Japan

Summer 1976

▼連盟は創始者の祈りによって
りであって、常に新しい家
生れたファミリーの全国的な交
の参加を期待している。

祈る教会

海老沢 宣道

聖書・使徒行伝一章一四節

どこの教会でも祈禱会の不振が嘆かれています。しかし祈禱の精神がすたれていないことは、祈る信者が今日も多くあることによって明らかです。個室で熱心に祈っている方があり、全国に朝禱会が催され各地でアシュラムが行われていることも大きな感謝であります。しかしそれが真の力となるためにはそれらの祈りが教会に結集して『祈る教会』になることではないでしょうか。

聖地を巡礼して感じたことは、金曜日には回教徒が、土曜日にはユダヤ教徒が、そして日曜日にはキリスト教徒が、確実に仕事を休んでそれぞれの会堂に集まり、熱烈な祈りを捧げている姿でした。それが西欧を廻って我国へ来ると、どうも教会生活がルーズになり、信仰が日常生活の基調となるほどの強力な訓練を与えられていないように思われます。

主イエスは絶えず独り山に入って祈られました。弟子たちが「私たちにも祈ることを教えて下さい」と願った時、「我らの父よ」に初まるあの「主の祈」を教えられました。山上の垂訓では祈り方の注意を与えられています。人に聞かせる言でなく、在天の父に聞いて頂くためですから、言葉は飾ることも長い多弁を繰返す必要ありません。幼児のよ

うに片言でもよいのです。私は幼時に少年サムエルの祈りについて教えられたことが生涯の祈禱生活の基調となつて、今を、今は亡き祖母と母と教会学校とに感謝せずにはおられません。

主は個室でひとり祈ることを勧められると共に、三高弟を連れて山に登られ、モーセとエリヤとの会談をされたあと、「もし二人が心を合せて願うなら、父はかなえて下さる。二・三人が私の名によって集まる所には私もその中にいる」と言われました。主イエスは十二弟子たちと共に日毎に祈りの時を持たれたにちがいありません。

ですから主の御昇天の後も十二使徒たちは共に集まって祈りに一致することができたのです。また女弟子たち十二名、主の兄弟たち六名と計三十名がエルサレムの二階座敷で十日間の連鎖祈禱会を持ち続けました。

この祈禱会に聖霊はすでに豊かに注がれつつあったのです。いよいよ五旬節の日が来た時、その祈禱会の出席者は一二〇名に増加してしまいました。そこに聖霊のいちぢるしい降臨があったのです。

私たちは聖地巡礼の一日をシオンの上に登り、あの『屋上の間』に入って、最後の晩餐とペンテコステの行われた時を瞑想し、共に聖書と祈りとさんびをいたしました。団員の総数は使徒たちの時と同じ三十名でした。非常な靈感を受けて外壁に付設された石段を下りてきたのは昨日のことのようです。

この祈禱会においてキリスト者の霊交

が確立したのでした。どこの国の教会も最初は祈禱会から出発していることが歴史に明記されています。わが日本にプロテスタント公会が設立されて既に百年の記念すべき年を過ぎました。その初めは宣教師バラに導かれた三十名の青年たちの祈禱会から九名の受洗者が生れたことによるのでした。

『祈禱会は実に教会の生命線である』と言わざるを得ません。所がどこの教会でも祈禱会よりは他の集会や奉仕のわざに心を向ける人が多いようです。初代教会において早くもその事が問題になり、(使徒行伝六章)使徒たちは別に七名の役員を選び奉仕のわざを担当させ彼らにまっぴら祈りと御言のご用に当ることにしました。

続いて起った大迫害の中にも主の教会が平安を保ち、基がたまり、信徒の増加を見、主の言がますます盛んにひるまうて行ったのは、祈禱の力に負う所が大きかったのです。ペテロの投獄された時も『教会では彼のために熱心な祈りが神に捧げられた』とあります。

十九世紀以来の大伝道者ムーデーやスボルジョン、今世紀のスタンレー・ジョンズの大きな活動の背後には何百万人もの祈りがあることを思う時、少くともアシュラムの恵みを受けた私たちはまず何はさて置いても各自の教会において、祈禱会のリバイバルを祈願して集まる者となり、日本全国の教会が真実に『祈る教会』となるように心を合せたす祈りたいものです。

編集人 海老沢 宣道
発行人 大石 嗣郎
定価 一部 50円 千 50円

「地区アシュラムの手引」(50円)
山根可式著
「アシュラムの恵」(百円)

連鎖祈禱の恵み

深谷教会 菊地 いう

私はかつて何回かのアシュラムに出席し、その度毎に多くの恵みを受けました。が、連鎖祈禱には余り積極的ではなく、むしろ義理的に出来易い時間を選んだものでした。

この度は上よりの力を与えられたい、積極的に行動するものにされたい願いの下に、自分に一番困難と思われる時間を選びました。

開心の時に朗読されたピリピ書二章を読んでいる間に、何と一言一句が主御自身の言葉として庄するようになり、「イエスは主である」と心から告白の確信を与えられ、未だかつてこんなに身近に神の御言を感じたことがないだけに、実に喜びと感謝に溢れ、この恵みの時を忘れることはできません。

今までの私の祈りは、恥かしいことに御言を聞くのでなく、自分の願いのみに神に語っていたことが多く、「僕は聞きません。主よ、お話し下さい」と言ったサムエルの態度こそ、真の静聴の態度であることを初めて知らされました。

アシュラムで恵みを豊かに受ける秘訣は、この連鎖祈禱に参加することであることが判って心から感謝しております。

祈りの恵み

大宮前教会 西村 笑子

「お祈りが一時間以上も出来るなんて

思いもよらない」と祈り下手な私は思っていました。アシュラムの連鎖祈禱の事を聞いた時のことでした。でも初めて参加した時、私は明方の五時から六時まで生れて初めて、祈りの一時を持つことができました。何とも言えぬ喜びと安らぎが心の底から湧いてくる思いでした。祈りの尊さ、安らかさを今更の如く感じさせられたことでした。

アシュラムで神様が私のつたない祈りに応えて下さった事を唯々不思議な思いでかみしめています。一回目の時の私のニードは、「人前で物を言うのが苦手です。少しくせでもそれができるように」ということでしたが、やがて神様は私に婦人会長という役をお与えになり、否応なしにそれを受けさせられました。

二回目は、私一人信者の家庭でしたから、家族が一人でも救われるようにという祈りでした。その時の分団の皆様が一年間共に祈って下さった結果、私も信じられないほどの事を味わいました。次女と次男とが自分から教会へ行くようになりました。今まで一度も教会行を強制したことはなく唯、かげで祈ることのみでしたが、神様は私の祈りに答えて下さいました。毎日曜日、親子三人で教会へ参ります時、唯々祈りの恵みをしみじみと感じさせられている今日此頃でございます。昨年三回目のアシュラムで残りの三人も救われやすうに、また出来れば長女にクリスチャンのいい御縁が与えられますようにとお祈りして参りました。神様がいつか必ずこの祈りにも答えて下さる

事を困く信じながら……。

やさしくて

むずかしい祈り

松沢教会 萱沼 孝文

祈り祈りと簡単に言うが、さてと胸に手をあてて見ると、実際にむずかしいのが祈りである。祈禱会や朝禱会などへもよく出席しているが、何かすっきりしないものを感じていた。そんな時、たまたまカルヴァンの「キリスト教綱要」を読んで、次の文章を発見した。

「何人も自分の良心に問うなら、あえて自分の配慮を神に申上げる迄もなく、憐みと赦しによらなければ、御そばに近づくことは戦慄となる。刑罰の軽減を求めるときは同時に、自分の罪の赦しを祈るべきである。それは原因が残っているのに結果のみの除去を欲するのは不合理だからである。我々は病の医しのみ焦って、病の根源を無視している愚かな患者の真似をしないよう用心すべきである」

神の赦しを信じていなければ、祈ることも神に近づくこともできない。赦しを願う乍ら憶面もなく罪を繰返しているのが私たちである。ここに私たちの祈りに力も喜びも張合いもなく、口先だけの祈りになる原因がある。これでは執成しの祈りどころか、祈る資格さえ欠く。打ち砕かれ、悔改め、目を覚し、転向し、神の赦しを信じ直し、もう一度、襟を正して坐り直すことから初めたく思う聞かれる確信のある祈りを捧げるために

クリスチャン

アシュラムの守り方(四)

▽祈りの分団

アシュラムは研修会とか協議会でないことは前にも書いた通りです。ではこの集まりの特徴は何かと言え、聖書に聴き、祈りに徹する生活を開始することであり、信心のために自分を訓練しなさい(テモテ第一書四章七)。「いっそう従順でいて、恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい」(ピリピ書二章十二)。つまり敬虔の修練を積むことでもあります。

従ってこの「祈りの分団」という時間においても、祈りに就ての講義を聞いた話し合うのではなく、お互いのニードを述べ合い、そのために心を合せ神の導きを祈り求めて助け合う時であります。もし祈りについて論ずるなら、言は言に終わります。実際に祈る時に言は肉体となるのです。分団という他の集会では分団協議の時を守るので、それと同じように思われやすいので、スタンレーは「祈りの細胞」と名づけていました。この方がよいかも知れません。

参加者一同は委員によって何れかのグループに十名位ずつ割当てられ、座長は一同がまず静まって神の御臨在を実感するように祈り、次で順次、祈りの要求を述べて貰い、直ちに心をこめてお互いのために祈りの実行に移るよう司会をして頂きたいものです。期間中に二・三回このような時間がある場合は、充滿の時を待つまでもなく、勝利と平安を与えられ

アシュラムの五大原則

(一) キリストへの明渡し

『イエスは主である』 との信仰告白

函館教会 増井孝雄

キリスト教は、単一神論的ヒューマニズムではない。唯一神論的キリスト信仰である。ハバククの見た神は、イエスがわが父といわれた神である。この神の託宣「見よ、その魂の正しくない者は衰える。しかし義人はその信仰によって生きる。」(ハバクク二・四)が「信仰義認」の語源である。アブラハム、イサク、ヤコブ、パウロの神は、イエスの父なる神である。信仰とは「望んでいる事柄を確信し、まだ見ていない事実を確認することである。」(ヘブル一・一)キリスト者は、キリストの初臨によって教会を通して初まった救いのわざが、キリストの再臨の時に完成するとの神の約束のことばを信じ、それを望んでいる。信仰の本質は見えないことを信ずることである。イエスがトマスに「あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信ずる者はさいわいである」(ヨハネ二〇・二九)といわれた。キリスト教は、「神の言」を信ずる信仰である。「神の言」によって、神の創造のわざ、神の統御のわざ、神の贖罪のわざを信ずることができているのである。旧約の預言者たちは、まだキリストによる救いの完成を受けなかったがそれを待望していた。

しかし新約の信者はキリストの初臨において、その救いを知らされており、み

すの血であがない取られたキリストの教会を通して、御約束の救いを完成されるのである。根源(アルケー)なる神への信仰はキリスト教の初歩的教えの基本(セメリオス)である。キリスト教は教義を信じるだけでなく、その信仰に生き続け、信仰の実をみのらせることである。「イエスは主である。」という告白は単なる教義ではなく、実践すべきものである。「愛にあつて真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達する」ことである。「キリストの教の初歩をあとにして、完成を目ざして進むのではないか。」(ヘブル六・一)ここにキリスト教会とキリスト者の前進がある。(道南アシュラム委員)

短歌「聖都にて」

澤 白 夢

とこしえの神の都にのぼりきて
み栄えの主を仰ぐ心地す
主を否み、とり鳴く声に悔いし
てふペテロの御堂見るも哀しき

「これはわが体なりまた血なり」として贖ないの宴張るこの部屋
世を恐れ弟子らひそみしこの部屋に今日も来つらん復活の主は
ヤハウエの神殿あとに回教の
モスクそびゆる時の無常か

▼報告▲

深谷アシュラム(第一回)

五月二日山根理事を迎えて
埼玉県の深谷教会(菊池いう牧師)はこの日曜日山根可弑師を助言者として迎え、朝礼拝から七〇名ほど集まり、御言を通して主イエスの人格について示され午後アシュラムの初歩につき指導を受けた。初めてのことである会員は、何か新奇なものを取入れるのではないかといぶかる者もあったが、参加して一同大いに恵まれ、明渡し、静聴の大切さ、聖霊の充満は一時的でなく永続して受けるべきこと、そのため祈りと励ましを与えられた。

折尾アシュラム(第二回)

五月三日より新潟県の寺泊町西生寺にて近江センターの榎本牧師を迎えて開かれた。出席三二名。明年も同時期に妙高池ノ平で開催の予定とのこと。

米国総務理事への感状

六月の米国理事会で
米国のアシュラムは勿論世界各国のアシュラムのため、故ジョーンズ博士の嘱望で総主事の役を引受けたりチャードソン氏は十五年の長期間奉仕をされ、その間八地区から五〇以上の地区で定期に開かれるようになったが、六月限り辞任されることになり、ゴルドン・ハンター師の提唱で各国からの感状を集め、製本して記念帳として理事会の席上で贈呈した。

- (三) 聖霊の啓導と充満
- (四) 神の国の体験と献身
- (五) 教会への奉仕と伝道

る人もあることでしようから、その恵みを一同に分ち合せて貰いましょう。これを「分ち合い」(シェアリング)と言います。これはアシュラムの参加者を単なる同信の友から、主にある兄弟へと改変して行くものであります。

以上のように祈りの細胞が守られるならば、やがて帰宅してからも、各自の教会内に、或は近隣の家庭間で、祈りのグループが作られて行く筈であります。

▼連鎖の祈り

委員は前以て祈祷室にノートを用意しておきます。また「祈りの時間表」を示して、午後十時から翌朝七時までの沈黙の時を一時間毎に区切り参加者一同が自由に選んで時間帯に記名して、密室の祈りを持つように勧めます。これによって、アシュラムは開会から閉会まで一時間も祈りの途切れることのない、祈りに終始する集まりとなります。これがアシュラムの動脈であります。ある人は、どうして一時間も長く祈ることができるのかと思いますが、実際できるのです。ここでは読むことよりも、瞑想、静聴、祈りをくり返すことが望ましいのです。用意されたノートにはお互いのニードを記入し、主より受けたお答えや先の時間に記された兄弟のために祈ったことなども書き残します。万一自分の受持った時間がすんでも次の人が来るまでは、その部屋に留まって、尚更に祈り続けて下さい。夜半に寝室を出入りする時、足音も立てないよう極力注意して他人の休息を妨げないようにして頂きたいものです。

日本からも海老沢理事長の感状を送り、過日リチャードソン師より礼状が来た。

▽予告▲

今年度も各地で次のようにアシュラムが開かれる。何れにも主の御臨在を祈り求めよう。同志の参加を期待する。

○道南アシュラム(第七回)

九月十七—十九日 函館千歳教会にて

助言者 山根可弼理事

委員長 白川鄭二理事

○岩手地区アシュラム(第二回)

九月二七—二九日 生活学園八幡平寮

助言者(近江) 榎本保郎師

委員長(東北) 村上 東理事

○関東アシュラム(第十五回)

九月十四—十六日 奥多摩福音の家

助言者 関東地区委員一同

委員長 横山義孝理事

○東京城西アシュラム(第一回)

九月二三日 東小金井カンパランド教会

助言者 海老沢宣道 池本金三郎理事

委員長(関東) 淵江淳一委員

○江古田一日退修会(第二回)

十一月十四日(日) 東京江古田教会

助言者 山根 可弼師

委員長 海老沢宣道理事長

○東京城南アシュラム(第一回)

十一月二三日(火) 目黒碑文谷教会

助言者 海老沢宣道理事長

委員長 大石 嗣郎理事

○代官山一日アシュラム(第三回)

十一月二三日(火) 渋谷代官山教会

○中部アシュラム(第八回)

九月十四—十五日 名古屋一麦教会

助言者 海老沢宣道理事長

委員長 内村サムエル理事

○関西アシュラム(第十一回)

十一月二—三日 千里山シオンロヂ

助言者 地区委員一同

委員長 中路 嶋雄副理事長

○四国アシュラム(第十一回)

十一月二—四日 松山市済美会館

助言者 海老沢理事長

委員長 宅都宮 充理事

○九州アシュラム(第十一回)

九月十三—十五日 福岡市西南山の家

助言者(近江) 榎本保郎氏

委員長 山本 繁夫理事

○東北及び中国アシュラム(未定)

○東京城北アシュラム(第七回)

七月二—十一日(金) 江古田教会

助言者 山根、岡田、大久保、他

委員長 海老沢理事長

以上十二地区に開催される何れの集会にも参加が歓迎される。希望者は各地の委員長あてに御申込み下さい。

キリスト新聞(四月二四日号)

近江センターとの関連記事

一人の兄弟から「過日キリスト新聞に連盟理事会の記事がのっていたが、その最後の所に近江八幡に開設されたアシュラム・センターとは提携協力しないことになり……とあったが、どう言う意味で

すか」との質問を受けた。

今年度理事会は前号に報告した通りの話し合いをしただけで、右新聞記事はそれに基づいて書き直されたものと思う。余りに簡潔に書いてくれたので、一寸読みには理事会が協力しないと決議したかのように早合点される危険があり心外である。然しよく見ると同記事も、そうは言っていない。実は連盟として今治時代の榎本牧師に二度文通で提携を申入れたがその都度加盟せずに協力して行きたいとの返事を頂いた。昨年再び高瀬氏は近江のセンターが開設されたのを機会に呼びかけたが、種々な事情もあって遂に同牧師から今迄の交渉一切を白紙に返してくれとの返信あり残念乍ら理事会の議題とはならず報告で終わったのである。連盟としては本誌第一面の欄外に毎号掲示している通り、常に各地に誕生したファミリーと主に在る交わりを結んで行きたいと期待していることに変更のないことを表明しておく。

◆個人消息

高瀬恒徳兄(連盟顧問) おvariなく御健康で去日総務会に出席された。

山根可弼兄(理事) 歌集「靈交の歌」を出版、祝賀会を盛大に催された。

萱沼孝文兄(理事) 御不快にて入院中御全快を切に祈る。

後宮俊夫兄(関西理事) 日キ教団教師検定委員長として御苦労されている。

渡辺 晋兄(関東委員) 歌集「山に向い

て」を出版された。

岡田 実兄(関東委員) 七月十八日より団長として聖地巡礼に行かれた。

メリー・ウェプスター姉、御不快にて入院中との事、御全快を切に祈る。

ジョーンズ博士記念事業

第十二回献金報告(四—七月)

- ▼一万円 海老沢宣道(④・江古田)
- ▼二千元 郷右近久子(東北・水沢)
- ▼二千元 牛島信義(関東・川崎)
- ▼一千元 古島よね(関東・世田谷)
- 小計(四件) 金一五、〇〇〇円
- 累計 金二、三五六、八〇〇円

◎連盟賛助の祈り(四—七月)

- ▼一万円 大石嗣郎(関東・碑文谷)
- ▼九千元 川俣教会有志(東北)
- ▼三千元 高瀬恒徳(関東・聖テモテ)
- ▼一千元 古島よね(・世田谷)
- ▼五百円 那倉一夫(・救世軍)

以上何れも感謝もて拝受しました。

総務の窓

新年度より総務の一般事務を一手に引受けて感ずることは、前任者(海老沢兄)のご苦労が並大抵ではなかったことです。どんなにやっても当り前のことであって不行届という言葉がはね返って来るのが普通です。しかしその中において少しでも感謝の言が書き添えられておきますと元氣百倍になって明日への励みに入ることです。どうぞよろしく。(大石)

東京都目黒区中央町1-21-10

参加者が何度でも読むべきもの